

## 分科会の記録 <第4分科会 組織・運営に関する課題>

【提言者3】佐賀県 武雄市立武雄中学校 宮崎 武司

【提言主題】非常変災等における危機管理体制と教頭の役割

－ 武雄市内小・中学校での危機管理体制の見直しを通して －

【協議の柱】

危機管理体制の構築と非常変災時における副校長・教頭の役割

【グループ協議 報告】

提言を受け、20のブレイクアウトルームで「継続性」、「協働性」、「関与性」の3つの視点をもって協議が行われた。多くのルームで、非常変災発生時における各学校の対応や取組について情報交換が行われた。情報交換の中で、コロナ禍の中での訓練の工夫、いかに安全に引き渡すかを見直していくこと、停電によって配信ができない場合の対応などの課題の共有も行われた。さらに、マニュアルや引き渡し基準、判断や関係機関との連携状況などについても情報共有ができ、今後の危機管理に活かせる協議となった。

また、危機管理体制構築や非常変災時において、副校長や教頭には、災害発生時の対応（指示）、情報発信、小・中の横の連携、地域・防災課などの関係機関との連携、保護者への啓発活動、防災に関する研修や担当者への助言などを通しての人材育成などの様々な役割があることを参加者内で確認することができた。

さらに、今回の提言を受け、「マニュアルの形骸化」や「有事に職員がどのように動くか、校長や教頭の不在時にどう判断し、どのように動くかを明確化できるようなマニュアルの作成」、「マニュアルにない想定以上の災害や事案が起こった場合にどのように対応するか」、「職員や児童生徒に課題意識がない。教頭としていかに意識を高めさせるか」など今後の課題を共有することができた。

【指導助言：全公教顧問会】（埼玉県三郷市立彦郷小学校長 加藤 景子 氏）

「つなぐ、いかす」をキーワードに指導助言をいただいた。最近では、危機管理を抱かせる事案が増加しており、「危機管理マニュアル作成の手引き」をもう一度よく見る必要性があると助言いただいた。

また、学校には安全、安心の拠点としての役割がある。そのためにも、人が変わっても地域が変わっても、様々な情報を収集することや地域や関係組織等と連携することが必要であること（継続性、協働性）を助言された。

さらに、危機管理面における「三現主義（現場に行き、見て、現状を知る）」、「危機について創造する力（危機管理のさしすせそ）」、「校長不在時の対応」、「安全教育の充実」など、副校長や教頭として必要な能力や課題についてお話しいただいた。

【指導助言：佐賀県】（佐賀県西部教育事務所長 平井 敏博 氏）

これまで経験された災害から学んだ「情報が命にかかわること」から指導助言を始められた。

連携・組織づくりについて、地域・行政との連携では、それぞれの得意分野で「役立ち感」や「有用感」を感じる繋がりを作ることができれば、他の連携にも役立っていくことを助言いただいた。

また、防災の取り組みの位置づけを明確化することや学校評価と結びつけることなどもお話しいただいた。

副校長や教頭として、各組織の強み弱みを把握すること、コーディネーターに徹すること、自ら動くことを少なくして、担当者等に任せて動きやすいように、副校長や教頭が発想を転換する必要があることなど、役割や課題について助言いただいた。